

# 働く場が

# 若者を地元に残す

## 江津工業団地へ工場進出



「江津で暮らすことは

「江津で働くこと」にもつながります。

未来に向けてこのまちで暮らすために

欠かせないもの、働く場所。

そんな中、企業の新・増設という

うれしいニュースが舞い込んできました。

### 江津工業団地で続く 企業の進出

松川町の江津工業団地。豊富な工業用水が特徴で、製造業の工場が並びます。昨年、この団地へ進出する企業が増えています。取材に訪れた3月5日、団地内ではクレーンやパワーショベルなどの重機が所狭しと動き、急ピッチで工場の建設を進めていました。

工業団地に進出・拡張したのは4社。しまね森林発電、日本パルカーライジング、広島工場、播磨屋林業が新規に立地し、トップ金属工業は工場を増設しました。今夏までに全ての工場が操業する見込みです。今後数年間で見

込まれる雇用の増加は、およそ120人。「人口減少対策に取り組む本市にとって、これ以上の良いニュースはありません」。企業誘致・振興に取り組む、商工観光課の担当者には胸を張ります。

### 地元志向が強まる 高校生

工業団地への企業の進出は、今年に卒業した高校生の進路にも好影響をもたらしました。新設した企業に、市内の高校卒業生6人が就職するのです。

「生徒たちの地元志向は、年々強くなっています。今春卒業し、就職した生徒75人のうち、石見部の企業に就職したのは44人、およ

日本ハイパーライジング広島工場（新設）

しまね森林発電（新設）



企業の進出、成長が待てる工業団地（広島県）をとりまくる環境の建設工事が進む（3月5日撮影）

## 地元で頑張ります！

石見智翠館高校を卒業し、春から社会人になります。進路を決めるとき、県外に出る選択肢もありましたが、地元で働くことを選びました。高校まで野球に打ち込んできたとき、ずっと支えてくれた親へ少しでもお返しができればと思ったからです。

社会に出る不安がないといえはうそになります。早く仕事を覚えて、頼られる人になりたいと思っています。



春から工業団地内に新設の企業に就職  
ひの 平 岳大 さん

「生徒の地元志向は年々強まっています」と話す江津工業高校の大賀美枝校長

「6割に上ります。数年前が30%程度だったことを考えると、驚くべき上昇です」と話すのは、江津工業高校の大賀美枝校長。製造業の増加は、同校の生徒にとっても、地元就職の機会が増えることを意味するといえます。「もしかししたら、地元で働きたい生徒は多かったのかもかもしれません。求人との関係から県外を選択していたとも考えられます。企業の取り組みと、生徒の思いとが一致した結果、地元就職率の増加につながったのだと思います」



「生徒の地元志向は年々強まっています」と話す江津工業高校の大賀美枝校長

## 江津の働くというイメージを

「大人になって江津で暮らすことは、江津で働くということ。江津で働く選択肢を知ってほしい」。そんな思いから、教育界と行政企業が協力し、一冊のパンフレットが出来上がりました。中高生を対象に、江津の企業を紹介するものです。企業ごと事業内容や職種、従業員数を掲載し、経営者やリターナー者からのメッセージも載っています。この春、市内の高校生と中学3年生に配布されました。「ふるさと江津を見守って、ふるさと江津を盛り上げて」

